

---

# やり返す

蜜実

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
やり返す

【Nコード】  
N8577C

【作者名】  
蜜実

【あらすじ】  
やられたらやり返す。それってきつと…

## （前書き）

初作品です

意外な結末は無く、  
淡々としていますが、  
よかったら読んでやって  
下さい（、、）

：今のところ、食に困った事は無いし、まあ、私はそれなりに幸せに暮らしているのだと思う。

でも、その幸せも永くは続かないことを私は知っている。  
近いうちに、私はきっと殺されるであろう。

私には前世の記憶がある。

前世、私は”人間”という動物であった。

私はメスの方で、それはそれは勝ち気な性格であったような気がする。

やられたら、私はいつもその倍にしてやり返していた。

一回ぶたれたら二回ぶち返した。

一個取られたら二個取り返した。

だからあの時も、私はやり返したのだ。

一匹殺られたから二匹殺り返した。

八月下旬。

私は友人と地元のお祭りに行き、金魚すくいをした。

私は一匹、友人は二匹の金魚をすくうことができた。

私のすくった金魚は黒くて大きめだった。

一方、友人の金魚は二匹とも赤くて小さめだった。

私と友人は、三匹の金魚を共に育てることにした。

先生から許可をもらい、学校の理科室で。

朝と昼と放課後に、二人で餌をやりに行く。

その時、友人はよくこう言った。

「黒い金魚って不気味だよな。やっぱり金魚は赤い方が可愛いなあ。」

」と。

それは、ある日の放課後に起こった。

その日の放課後、いつものように二人で餌をやり理科室へ行くはずだった。

でも、私は掃除当番だったので後から理科室に行くことになった。掃除が終わり、理科室へ向かう。

ドアを開けると、そこには泣きじゃくった友人の姿があった。そして「クロが死んでるの」と言った。

クロとは黒い金魚のことで、私がすくった金魚の方だ。水槽に近付いてみると、クロがぶかぶかと浮いていた。餌を散らしてみても口を動かさない。

クロが食べないまま下に落ちて行く餌は、赤い金魚二匹がばくばくと食べていく。

その日、二人で学校の校庭の隅にある桜の木の下にクロを埋めた。

その時、なんとなく思った。

クロは友人が殺したんじゃないか、って。

どうしてそう思ったのかはよくわからない。

でも、前から友人はクロのことを不気味だとか言っ、て、良くは思っていないかっただろうから、そんな気がした。

友人が掃除当番となつた次の週。

私は殺り返した。

やられたらやり返す。

殺られたら殺り返す。

それも倍返しだ。

どんな殺り方をしたのか覚えていない。

その後、その友人とどうなったのかも覚えていない。  
でも、殺ったのは確かだ。

だって私は、こんなにも前世の記憶があるまま、現世では金魚として生きているのだから。

きつと殺り返されるのだ。

やられたらやり返す、とは、やったらやり返される、という事だ。

私は、少なくともあと一回は金魚として生まれ変わるのであろう。

二匹殺したのだから。

それとも二倍返しで、計四回、金魚として生まれ変わるのだろうか。

そんな事を考えながら、段々意識が薄れてく。

桜の木の下の土の中で。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8577c/>

---

やり返す

2011年2月2日05時06分発行